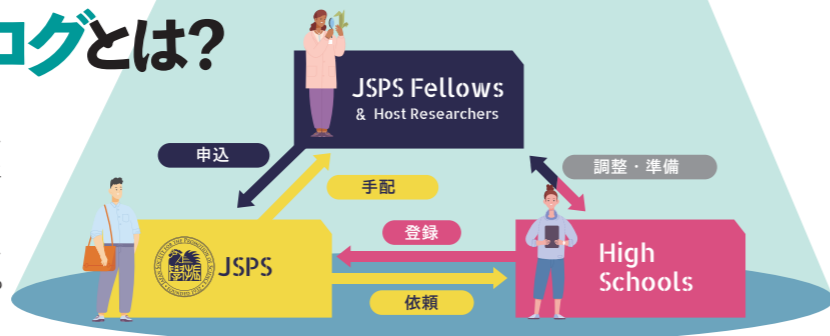


# サイエンス・ダイアログとは?

日本学術振興会(学振)のフェローシップ制度により来日し、各地の大学・研究機関で研究をしている外国人研究者(フェロー)有志を、近隣の高等学校等に講師として派遣し、自身の研究や出身国に関する講義を英語で行うことで、参加する生徒の研究への関心及び国際性への理解を深めることを目的とするプログラムです。

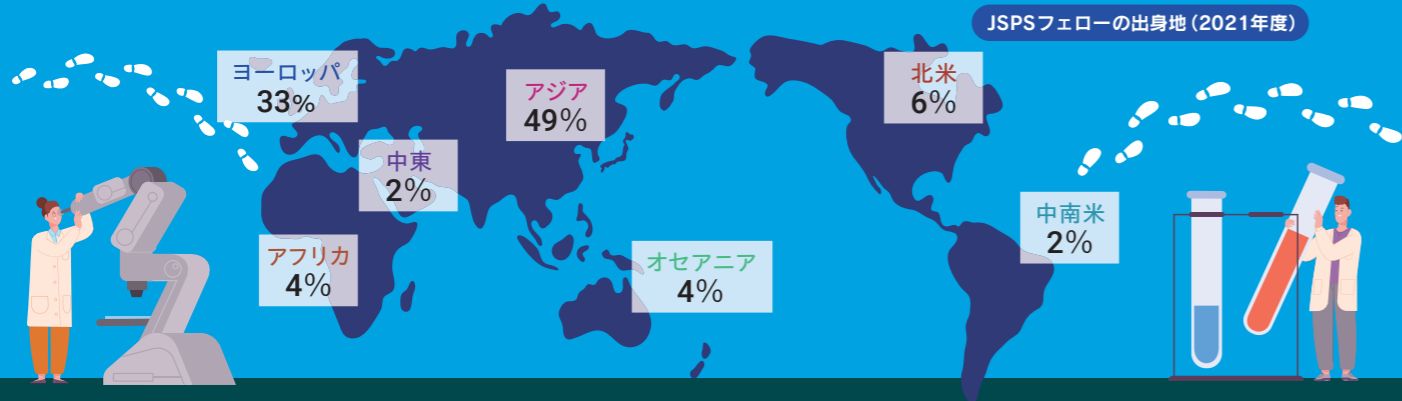


世界中の研究者が語る、  
科学の世界



講師になるのはどんな人?

講師は、学振のフェローシップ制度によって、厳しい審査を経て世界各国から来日し、最先端の学術研究に携わっている優秀な研究者です。



全国で約210校の学校が参加しています。参加した生徒はのべ約60,000人の上っています。授業後のアンケートで「再度講義を聴きたい」と回答した生徒は全体の約90%と高い満足度を誇ります。

## 実績件数の推移 ※2017年度より1校につき年間3件までに制限

2004年度	3
2014年度	196
2015年度	201
2016年度	198
2017年度	146
2018年度	137
2019年度	135
2020年度	97 (オンライン含む)
2021年度	108 (オンライン含む)

## 申込締切

参加を希望される場合は、下記期間内にお申し込みください。(締切厳守)

### 1学期開催分申込(2023年4月~8月)

2023 2 Mon 13 ▶ 2 Fri 17 17:00締切

### 2学期開催分申込(2023年9月~12月)

2023 5 Mon 8 ▶ 5 Fri 12 17:00締切

### 3学期開催分申込(2024年1月~3月)

2023 8 Mon 28 ▶ 9 Fri 1 17:00締切


実績

参加するには?

お申し込みの際は、必ず下記 Web サイトに掲載の「実施要領」をご一読ください。

- 1 打ち合わせ**  
学振から参加校の先生に、講師側の連絡先をお伝えします。  
参加校の先生から講師側に連絡を取り、両者にて講義内容や必要な機器などについて打ち合わせを行ってください。
- 2 交通費**  
講義実施後に、学振から講師及び講義補助者に交通費を支給します。  
支給額は学振の規定に基づいて算出します。

## WEB サイトのご案内

サイエンス・ダイアログWebサイト(日本語)  
<https://www.jsps.go.jp/j-sdialogue/index.html>
  
 実施状況がご覧いただけるほか、必要な資料のダウンロードができます。  
 申込書 / 報告書、アンケート様式 / サンプル英文(講師側との連絡用)

## 独立行政法人 日本学術振興会

国際統括本部国際企画部人物交流課

〒102-0083 東京都千代田区麹町 5-3-1

お電話でのお問い合わせ

メールでのお問い合わせ

03-3263-1730

sdialogue@jsps.go.jp



## 日本学術振興会 (JSPS) とは?

文部科学省所管の独立行政法人で、日本の学術研究の振興を担う機関です。

博士号取得前後の外国人研究者に対し、日本で研究を行うためのフェローシップを提供しています。

お問合せ

**講義例 #1** 2022年6月 お茶の水女子大学附属高等学校  
**講師** Dr. Chloe Salhani 東京大学(フランス)  
**テーマ** Material Science - a look at physics at the nanoscale

希望者 20 名が参加しました。講義について、メールにてこちらの要望をお知らせし、事前に当日の内容や講義のタイトルなどを教えていただきました。物理や電子工学の専門用語が多く登場する難しい内容ではあったものの、生徒たちは熱心に聞き入り、積極的に英語で質問をしていました。専門的な研究のお話をその道のプロの研究者から英語で聞くことができたのは、とても意味のあることで、英語を使って講義を聞くという体験をしたこと自体に意味があったと考えています。さらに英語学習を努力しようという動機づけを高めることもできたと思います。

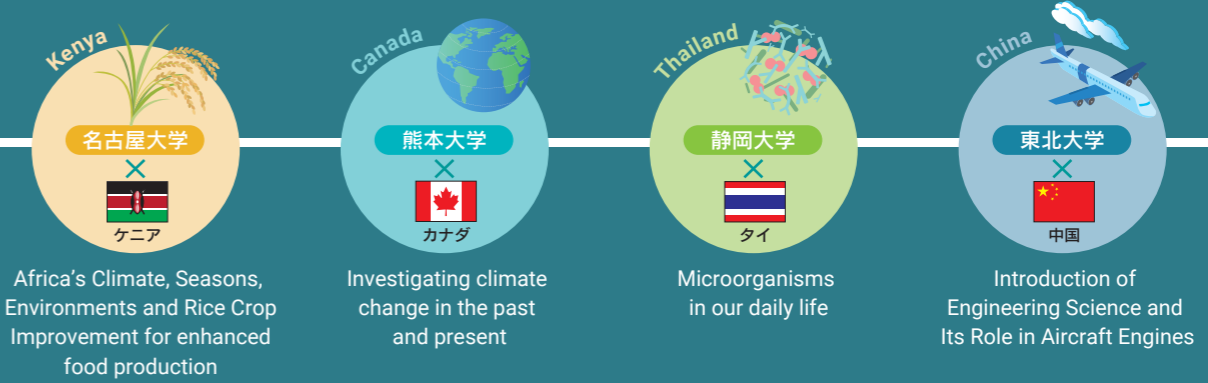


**講義例 #2** 2022年7月 滋賀県立彦根東高等学校  
**講師** Dr. Nora CARLSON 京都大学(アメリカ)  
**テーマ** How Birds Communicate

理数科、また将来留学を希望する計 51 名の生徒が参加しました。身近な野鳥が、同種族間または異種族間どのようにコミュニケーションをとっているかについての講義で、鳥の鳴き声の音声をスピーカーから流してくださったので、イメージしながら受講することができました。また、考えて参加するクイズも用意してくださったので、英語が苦手な生徒も興味を持って参加することができたようです。英語も研究内容も難しかったかもしれませんが、これからの学習や、大学での研究・留学への意識づけになったと考えます。

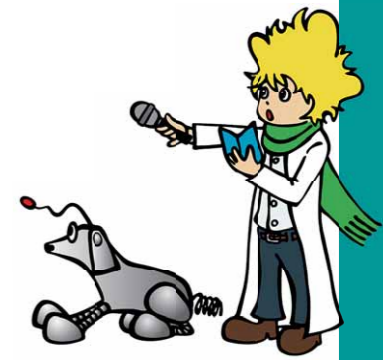


その他こんな講義が行われています！



参加校からのメッセージ

**兵庫県立川西緑台高等学校 (兵庫県) 山本 和也先生**  
 本校では、総合理数コースの生徒が毎年各学年1回ずつ講義を受けています。講師の先生からご自身の研究内容を英語で話をさせていただくのですが、専門的な内容だけでなく、出身国のことについて触れたり、生徒たちの様子に合わせて写真や図を交えてゆっくり説明していただいたりと、英語に苦手意識がある生徒にもわかりやすく話してくれます。この講義をきっかけに英語をもっと勉強したい、専門的な研究がしたい、海外で学んでみたいと思う生徒が増えてくれればと思います。今後も実施していきたいと考えています。



2022 年度サイエンス・ダイアログ参加者からの声

from students

生徒から

- Voice#1** 外国の方から地理で学んだ地形や気候の特徴などについて改めて聞いて良かった。自分には実感がない社会問題を考えることができた。
- Voice#2** 英語でも理系の内容だと理解できる言葉があったり推測ができて、理科は共通なんだなと思った。そして今後の勉強や研究へのモチベーションとなりそう。
- Voice#3** 正直、知らない単語が沢山あり、スピードも速く感じたが、普段のリスニングで鍛えられた自分の成長を感じることができ、自信に繋がった。
- Voice#4** 講師さんに分からないところを丁寧に教えて頂いてとても助かった。堅苦しい雰囲気ではなく、楽しい雰囲気の中で講座をしていただいていたので楽しかった。
- Voice#5** 女性の研究者の貴重なお話を聞くことができ、とても良い機会になった。

from the teacher

先生から

- Voice#1** 高等学校の教科とは異なり、すべての学習が根底でつながっていることが確認できたようである。また、どんな研究をするにしても、国際性が必要であり、自身のこと、自国のことを多言語で表現することが求められる時代になっていることを真摯に受け止めたようである。何より、どの生徒にも英語をもっと勉強して、実際に使ってみようというモチベーションの向上がみられた。
- Voice#2** 講座の最後の講師から生徒へのメッセージは、進路の選択において自身を見つめ直すきっかけを与えてくれたと感じた。「あなたの情熱は何か」「情熱はあなたの将来を決定する」「成功する方法は誰も教えてくれない」「自身で世界を体験し、探究しなければならない」という言葉は、将来、何かを成し遂げようとする生徒にとって、心に残る言葉になったのではないかなと思う。

from the lecturer

講師から

- Voice#2** Very nice program for connecting or linking higher education and research activities with younger learners in secondary schools. It's a good strategy for creating interest in scholarly activities to young learners and broadening their minds to future aspirations.
- Voice#2** Hearing about different countries and experiences can help students to reflect on their own lives and studies. Learning about research can also motivate their own studies.

